



一般社団法人 札幌 YWCA
〒060-0807
札幌市北区北7条西6丁目
北海道クリスチャンセンター内
Tel & Fax: 011-728-8090
E-mail: sapporo@ywca.or.jp
振込先: ゆうちょ銀行
加盟者: 札幌 Y.W.C.A
番 号: 02710-9-49613

標語: 「知る力と見抜く力とを身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように。」
(フィリピの信徒への手紙 1 章 9 節 b、10 節 a)

『ひとりひとりが大切にされる社会を目指して』

志堅原 郁子 (NPOピーチハウス)



所属する NPO ピーチハウスは、ジェンダー（文化的・社会的性）対等性の視座から、個人と社会の「元気」を考え、幼児から大人まで幅広い層を対象に各種講座を提供しています。こうした活動の後ろ盾となり、公的機関から協力を得て中・高・大学の教育現場で直接、若い世代に情報提供できているのは、日本国憲法（13条個人の尊重、14条法の下での平等、24条家庭生活における個人の尊厳と両性の平等、25条基本的人権の保障）の存在があるからです。私は「憲法カフェ」のストレートなタイトル

に強く惹かれました。

私の活動の軸は「人権啓発と暴力の未然防止」。暴力を選ばない、暴力を選ばせない、という意識づくりと環境づくりに重点を置いています。暴力は、人が安全な場で、安心して、自分らしく生きていける権利、つまり人権を侵害し、長期にわたって影響を及ぼすからです。

暴力は多様で重層的で、そして私たちの身近にあふれています。家庭では DV や児童虐待が、学校ではいじめやデート DV が、職場ではパワハラやセクハラ、国際社会では紛争やテロが起きています。貫く構造は「力と支配」です。力に勝る一方が様々な暴力を時と場合によって使い分け、もう一方を自分の思い通りに動かす「支配」（コントロール）することです。目的は支配であり、暴力は手段として使われています。

暴力という手段を選ぶ／選んだ人たちは「自分は絶対正しい」「正しいことのためだから暴力ではない」と言います。こうした主張を支えているのは、濃淡の差こそあれ、暴力を選ばなかった人たちの中にもある「暴力容認の意識」です。「被害を受けた側にも落ち度がある」「そんな事ぐらいで～」などという考え方です。

(2面に続きます→)

第7回 一般社団法人札幌YWCA定期総会の公告

札幌 YWCA の定期総会を以下のように開催しますので、今から御予定くださいますようにご案内いたします。

- 日 時 2017 年 5 月 20 日 (土) 午前 10 時から午後 2 時
- 会 場 Y's Café
- 議 案 2016 年度活動報告と 2017 年度活動計画案について
2016 年度 会計決算報告と 2017 年度会計予算案について
その他

札幌 YWCA 理事会

私は沖縄で生まれ、米軍統治時代を経験しました。沖縄の施政権が米国から日本に移された1972年当時は小学4年生でした。ちょうど札幌オリンピックの年です。沖縄は切望していた「基本的人権の保障」と「戦争の放棄」を日本国憲法下で初めて手にしました。売春防止法の適用で管理売春は違法となり、優生保護法によって避妊と妊娠中絶が合法化されました。しかし「力で相手を支配する」という目的と機能を持った戦闘準備・訓練施設である米軍基地は残りました。

身近に起こっている暴力への無関心は、戦争構造を容認することにつながっていきます。同様に、他の地域で起きている暴力から目を背けることは、身近な人を苦しめている暴力を認めることにつながります。

世界規模で考え、地域で行動し、そして自分が変わる。

「平和の最大の敵は無関心である。戦争の最大の友も無関心である」（阿波根昌鴻）

私がいづつも心に留めている二つのことばです。

Y's Café 便り

☆第5回『憲法カフェ』（3/11 土曜日）

講師：北村 巖さん

「大逆事件を読み解く～この教訓から共謀罪を考えるために～」

東日本大震災と福島第一原発事故から6年目を迎える3月11日に行われた第5回の憲法カフェは、犠牲者の方へ黙祷を捧げることから始まりました。

「大逆事件」を読み解く～この教訓から共謀罪を考えるために～と題して、講師の北村巖さんから国家権力による捏造であり冤罪である大逆事件について、当時の新聞記事などの資料や北村さんが撮影された写真を参照しながら解説していただき、カフェタイムを挟んでのQ&Aでは北村さんと熱心な参加者との間で活発な意見交換がなされました。

今日3月21日、平成の治安維持法とも言うべき「共謀罪」法案が閣議決定されました。治安維持法も「善良なる国民には関係ない」とし成立し、多くの国民が弾圧されました。「共謀罪」法案についても市民運動や労働組合などが監視され、処罰される可能性が指摘されています。同じ過ちを二度と繰り返さないために。私たちも一人でも多くの方々に憲法カフェで学んだことを伝えたいと思います。貴重なお話を頂きました北村巖さんに感謝申し上げます。



☆Y's Café は、会議の場にも利用されています。



Y's Café は、会議で利用されるお客様が大変多いのも特徴のひとつです。会議の後に食事を楽しまれ、食後にコーヒーを飲みながらカットケーキやケーキセットをご注文される方もいらっしゃいます。また、クリスチャンセンターのお部屋を利用される方たちから「ケーキセット」の注文も多く頂きます。ありがとうございます。

近年は、バザー品をお求めになられる方も多く、「すみませんが、見せていただいてもいいですか？」と、開店前からドアの前でお待ちになられている方もいらっしゃいます。嬉しいことです。

☆ボランティアさんの言葉から

先日、壘開店のための調理練習に来られたボランティアの方が「主婦ひと筋だった私が、このような団体と出会えて、ボランティアをすることによって社会の役に立つ事ができるなど考えたこともありませんでした。障がいのある方や困難な生活をしている人のために、そして女性の自立のために……。募金箱に募金をする以外にも、働くことで何かができるんですね。新しい人生が開けた気がします。いろいろな方とお話もできますしね。」とおっしゃって下さいました。



2017年3月21日(火) 14:00~ @Y's Café
ルカによる福音書第9章
雨貝 行麿牧師(北海道クリスチャンセンター館長)

いま、イエスさまはご自分の十字架への道行きを弟子たちに語りました。しかし、ルカ福音書の書き手は、それでも弟子たちにはまだわからないでいます、と。

イエスさまは、弟子たちを見捨てません。かれらが「イエスさまのこと」を理解できたからではないのです。「わかってもらえない。」から切り捨てる、ということをしていません。まだまだこれからだということでしょうか。イエスさまだけではなく福音者記者もまた「イエスさまは見捨てない。」ということを書いています。福音書がわたしどもに示すこと「ひとを愛する。」とはこれですね。

わたしどもは、「子を育てる」という経験をします。若いときですね。「親として」というよりも「そうやってひとは親になる」のでしょうか。未熟な人間が、幼い子を育てる、ということの経験を重ねて、成熟していくのです。

福音書の中のイエスさまも、弟子たちを育てる、という経験を重ねておられます。初めから神々しいまでの神さまといういでたちではなしに、弟子たちという、未熟な人々を「愛しながら」イエスさまご自身もその「慈しみと愛を深めておいでです。」

イエスさまは、弟子たちを後継者としてそだてようとしておられます。「教育者」でしょうか。最近「教育」ということがないがしろにされています。いま「子どもを手に取り、そばに立たせる。」この子を、イエスさまは、抱き上げていないのです。「手を取り」そして「立たせる」のです。ひとが独りで立つのではなく「手をつなぎ、立つ」ことのイメージですね。

日本の国技は、相撲だそうです。一対一です。そしてだれが一番かということです。最近ではサッカーが盛んになり始めています。これはチームワークです。いうまでもなく連携で成果を上げます。連携でしか成果をあげられません。個人競技ではないのです。だれが一番かではなく、連携をしながら成長します。より深い、緊密な連携ができていきます。

教会もまたそうですね。チームワークです。連携プレーです。さてそんななかで「だれが一番か」という問いです。これから「育っていく」子に「手を差し伸べます」。頓珍漢な弟子たちでしたが「未来」がある、という感じです。自分が一番か、ということではなくてチームワークです。しかも「最も小さい」社会の中で最小の単位が、最大の単位だということです。とても暗示的です。

目の前に見る、その最小のことを、最大だと見る、いいえ最大だと「認識する」という価値観です。信仰とは、その意味で新しい価値観だといえましょう。

さてこの弟子たちのチームワーク、連携は、自分たちだけのことではない、というのが次の話です。たくさんの、いまは目の前に、まだ見えない、たくさんのチームワークで生きている人々がいる、という世界観です。「味方」はたくさんいる。わたしどもは独りで頑張っているのではない。他にも同じ思いの人々がいる。みんな「味方」なのです。みんな「味方」なのですからこれはまさしく「最大」ですね。

かつて、自分たちだけが正しいといって、少しでも違うものを排斥したり、距離を置いたりした人々がいきました。イエスさまが示す道を歩みましょう。

☆次回は、4月18日(火) 14:00~の予定です☆



～ばらのおうち文庫から～

『はなを くんくん』

(ルース・クラウド/文 マークシモント/絵 福音館書店)



この時期、雑木林をぬって僅かに踏みならされた雪道を歩くと、あたりの木々の根元がぽっかりと雪根開きのサークルに囲まれ、耳を澄ませばコッコッコッコと忙しないアカゲラの木をついばむ音が林中に響き渡っています。ゆっくり深呼吸をしながら自然の中に身を置くといよいよ待ちに待った春到来なのだと思うず笑がこぼれてきます。

クマが笑っています、ノネズミも、リスも、カタツムリも踊っています。黄色と黒と白の三色で描かれた「はなを くんくん」の表紙には動物たちの春を迎えた喜びが満ち溢れています。

この絵本はアメリカを代表する絵本作家ルース・クラウドとマーク・シーモントのコンビの作品です。お互いそれぞれ数々の絵本を世に送り出しています。日本では1967年まさに春到来とばかりに3月20日、きじまはじめさんの翻訳で福音館書店より発売されました。50年経った今も色褪せることのない燦然と輝く良書として子どもたちに愛されています。

一面の銀世界の中、静かに雪が降り積もります、土の中ではネズミたちが眠り、深い山奥ではクマが眠りについています。木の中でカタツムリもリスも眠っています。ページをめくるごとに小さな生き物から大きな生き物まで身を丸めて眠っている姿が、白黒の柔らかなタッチで画面いっぱい描きだされています。静かに降る雪と相まって森の静寂さがしみてきます。おやおやどうしたことでしょう、ネズミが顔を出しました。眠気まなこのクマも巣穴から顔を出して何やら鼻をくんくん！ リスも、まるでオコジョのように巣穴から物珍しげに首をのばしくんくん！・・・くんくん・くんくんのリズムは、森でこれから何か起こりそうだという期待を膨らませてくれます。一気に静から動へと向かいます。巣穴から出て小さなカタツムリから大きなクマまでページをめくる右側へと向かい一斉にかけてだします。どんどん動物たちが増えていきます。しかもくんくん、くんくんと大きく息を吸いながら・・・そして、ぴたり。みんながとまり・笑います・踊ります。「ゆきのなかに おはながひとつ さいてるぞ！」そこには小さな黄色い花が一輪。その春の使者は、私たちを含めた生きとし生けるものへの光であり希望の象徴のようにうつります。モノトーンで描かれてきたラストに初めてぽっと色を与えるとは、何と心憎い展開でしょう、春の喜びが・・・開放感が体中に広がり森の動物たちと共に思わず笑顔で深呼吸してしまうのです。

『はなを くんくん』は自然の摂理を無理なく伝えてくれています。もっと大切なことは五感で春を感じることです。子どもも大人も大いなる自然の中に身を置き、できることならスマホも携帯ももたず、春の音を、春の匂いを、春の芽吹きを是非体感していただきたいと思っています。

※ばらのおうち文庫は第1～第3木曜日に清田区で開催されています。[検索](#)→ばらのおうち文庫
(ばらのおうち文庫 高橋洋子)

＜会員募集のお知らせ＞

会員・会友：YWCAの目的に賛同し、活動を希望する女性の方はどなたでも会員になれます。

会費：月額1,000円

男性の方には会友の制度がございます。詳細はお問い合わせください。会費：月額600円

賛助員：会の目的にご賛同くださる方はどなたでも、ぜひご協力ください。

個人(1口)年間3,000円 団体(1口)年間10,000円

購読会員：日本YWCAの機関紙と札幌YWCAのニュースレターをお届けします。年間3,000円

☺中高 YWCA 卒業お祝い会☺

Congratulations

3月11日(土) 中高 YWCA 卒業お祝い会は、18名の参加をもって楽しく終了しました。自己紹介や会話の中での生徒の声をご紹介します。

*なぜ YWCA・YCA 部に入ったのか？

楽しそうだから、様々な方と出会いたい、人の役にたちたかった、肥田先生に勧誘されたから、たくさんの人と出会い多くの事を得たいというのが高校生になった自分の目標だった、友だちに誘われたから、バザーやボランティア活動をしたかった、バイトの合間にできることをしたかった



*一番の思い出は？

山形のカンファレンスに参加できたこと、おもちゃ図書館で子どもたちとふれあえたこと、大倉山学院でのボランティアで役に立てることを実感したこと、大倉山学院から見た海は忘れられない、ひまわり号で障がいを持った方たちと話すことができ勉強にもなったし自分を考えることができた



*次年度の抱負は？

もっとたくさんの事に参加できるようにしたい、先輩たちを支えたい、受験に向けて勉強も頑張りたい、カンファレンスに行きたい、盲導犬について学びたい、多くの新しい人と出会い学びを深めたい

小島先生(北星)が用意してくださった活動写真を見ながら、「幅広い活動に参加したい」「カンファレンスに行きたいな～」「道内のYWCAの方たちとも交流を深めたい」「実際に障がいのある方を手伝って難しいからもっと勉強したい」と話している姿がありました。

また、フォローアップスクールに興味を持った子もいて、「自分も不登校で転校した経験があるからわかります。将来は臨床心理士になりたいと思っています」という子もいました。「札幌 YWCA・壘に行きますから、飲み物に学生料金を作ってください!」「今年もバザーを手伝います。パンケーキ作りましょう!」という子たちもいて、高校生のエネルギーを感じながら、社会の問題に真摯に向き合うまなざしに心を打たれた2時間でした。



☆札幌 YWCA・壘



4/8(土)に開所記念礼拝が行われ、10日から営業開始の『札幌 YWCA・壘』です。

看板も出来上がりました。

引っ越し作業も順調に進み、開店を待つばかりです。

カフェのほかに、読み聞かせやフォローアップスクール等も行われます。Y's Caféのように、たくさんの方に利用していただけたらと願っております。

礼拝の様子は次号に掲載いたしますので、どうぞお楽しみに♪